

1けたをかけるかけ算の筆算

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

筆算の手順の意味を、数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることができない。

問題：1箱12本入りのえん筆が4箱あります。えん筆は全部で何本ありますか。



どうして筆算は12を1と2に分けてずらして計算するの？

筆算の仕組みを位取りと関連付けて考えられない。

筆算の順番は覚えただけ、どうしてこんなふうにしないとイケないの？

筆算はできるが、手順と意味を関連付けて説明できない。



単元の概要

目標

(2、3位数) × (1位数) の計算の仕方を、数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることができる。

内容

※太字は次ページに詳細を掲載

- **2桁×1桁の筆算**
- **3桁×1桁の筆算** (繰り上がり無し、繰り上がり1回2回3回)
- **かけられる数に0がある筆算**
- **暗算**

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	分数×分数	→ 分数×分数の意味を理解して計算することができない。
第5学年	分数のたし算	→ 通分をすることなど、異分母の加法や減法の意味が理解できない。
	通分	→ 公倍数を用いて通分ができるが、その意味が理解できない。
第4学年	分数	→ 単位分数と関連付けて真分数、仮分数の意味や大きさが理解できない。
第3学年	1けたをかけるかけ算の筆算	→ 筆算の手順の意味を、数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることができない。
第2学年	10000までの数	→ 十進位取り記数法について、位ごとのまとまりとして正しく理解できない。
第1学年	100までのかずのけいさん	→ 十の位を1が10集まったまとまりとしてとらえられない。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

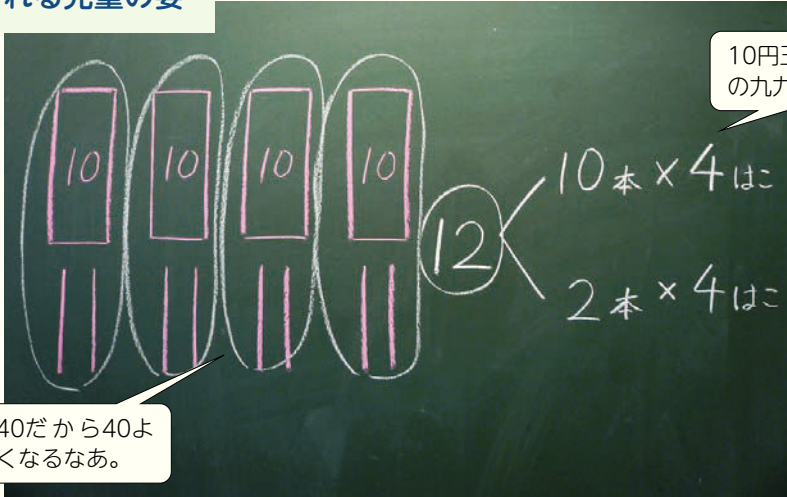
問題場面や式を、十のまとまりなどの図を用いて表現する活動

活動のねらい▶ 数を位ごとのまとまりとして、具体的にイメージできるようにする。

ここが
ポイント

立式や計算をするときに、数え棒をイメージした十のまとまりの図を描かせることで、数を位ごとのまとまりとして具体的にイメージできるようにする。

期待される児童の姿



10×4=40だから40よりも大きくなるなあ。

10円玉で考えた時の方法と、2の段の九九を合わせたらできそうだな。

図を用いることで、数のまとまりを意識でき、筆算における位の意味について考えられるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

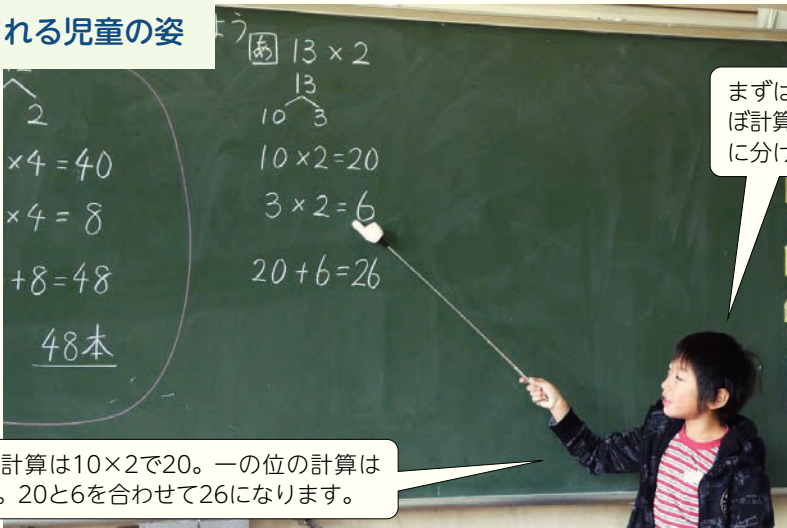
キーワードを用いながら、図と式を関連付けて計算の仕方を説明し合う活動

活動のねらい▶ 位ごとのまとまりを意識し、図的操作と、手順を関連付けながら計算できるようにする。

ここが
ポイント

「分ける・十の位・一の位・合わせる、のキーワードを使って計算の仕方を説明しましょう」と指示し、図と式を関連付けて説明させる。

期待される児童の姿



十の位の計算は10×2で20。一の位の計算は3×2で6。20と6を合わせて26になります。

まずは、13をさくらんば計算のように10と3に分けます。

キーワードを用いて説明することで、筆算の意味を位ごとのまとまりと関連付けながら理解することができる。